

明冷

明るさが増す一方で、空気は澄んで冷たく感じられる、そんな季節の情景を表す言葉。日差しで明るくなる中、冷やかさが同時に存在する繊細な季節です。



今年一年も大変お世話になりました。

今年は「農業生産力」をテーマに揭げましたが、例年になく異常気象や自然環境の中でも、農人たちはこれまでの学びを糧に品質の良いねぎづくりに励むことができました。来年も生産者としてより良いねぎづくりに努めます。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

産地を移り変え、旬の冬葱たちをお届け

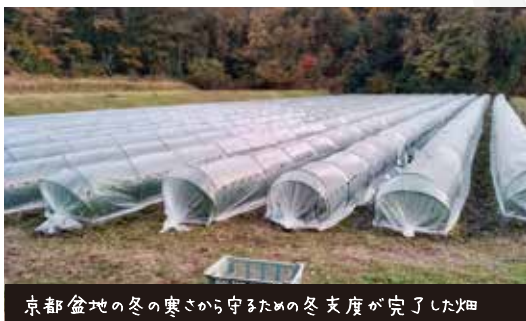
12月前半は、11月に続いて丹後・美山のねぎを、後半から年末にかけては亀岡・市内のねぎをお届けします。このように産地が前半と後半で切り替わる理由は、「雪」による影響を避けるためです。丹後や美山では中旬頃から降雪の可能性が高まり、収穫や出荷に支障が出る場合があります。そのタイミングに合わせて亀岡や市内の産地へ移行し、天候に左右されにくく、安定した品質のねぎをお届けできるよう調整しています。冷え込みでグッと甘みを増した冬葱、ご賞味ください。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信



ひとつの畝ごとに3人で声をかけ合いながら畑にお布団をかけます



京都盆地の冬の寒さから守るための冬支度が完了した畑

新しい年を迎える準備、農人たちの師走

12月から真冬並みの寒気が南下し、西日本では寒さや大雪のリスクが高まる予報が出ています。そのため、今年も被覆作業を早めに行い、ねぎを寒さから守る体制を整えています。地道な作業ですが、チームプレーで連携しながら冬支度を進めていきます。また、年内最後の作付けを京都市内でも進めています。12月に植えた苗は、寒い冬を越えて新しい年も越えた5月に収穫予定で、1年の中でも一番栽培期間の長いねぎになります。今年は一気に冷え込み、朝と日中の気温差もあり、体調を崩さないように気をつけながら被覆や定植の作業を農人一同協力して行っています！



— とある日の農人日記。 —

今植えている苗は夏に水やりを失敗し一度枯らしてしまいましたが、その後復活した苗です。過酷な環境を耐えて育ったからか根の量が多く非常に良い苗です。（丹後・浅尾）

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことわざだより

NO.223

2025年12月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

KOTO GROUP
4A

冬葱

※ 年末年始、余裕を持ったご発注を ※
毎年この月（中旬以降）は、年末にかけての繁忙期・交通事情等で時間指定されていても延着等のトラブルが発生しています。万が一に備え、店舗様の方でも、通常より在庫をお持ち頂き、若干の延着が発生しても影響が緩和できるようにご協力いただけますと幸いです。